

特別支援学校高等部第3学年 芸術科 美術Ⅱ 学習指導案

1 題材名

「問題解決のデザイン」～粘土を使った実用的なもの作り～（光村図書）

2 題材について

(1) 題材観

実用的なものには使いやすさや、安全性を高めるために様々な工夫がなされている。日本の歴史の中で、生き残ってきたデザインというものは、機能的であり、日本人の美意識を反映したものである。日本人の美意識の移り変わりを特に感じるができるものの一つに日本の伝統文化である茶道で使用する「抹茶碗」がある。「抹茶碗」の歴史を知り、実際に作って使用することで、機能的な美についての理解が深まると考える。

本課程は、高等学校の教育課程に準じた教育を行っており、教科の授業に加えて週に2時間「自立活動」を行っている。教科においても、「自立活動」の個別の目標を踏まえることで、生徒の学びを深くするための効率的な指導が可能であると考え。粘土を使う題材は、空間認知能力や、体をイメージどおりに動かしたり、手の感覚を使ったりして素材の状態を把握する力が必要になってくる。このような能力の育成は、自立活動の内容とも関連しており、自立活動の視点からも生徒の力を伸ばす題材として適していると考え。

(2) 生徒観

男女2人ずつの4人のクラスである。自分の動作イメージを客観的に把握することが不得手で、視覚的な模範指導が難しいが、中学時代に美術部に所属していたこともあり、絵を描く事に自信を持ち積極的に取り組む生徒。素材の扱いに経験不足があり、作業で当然起こりうる事態を見通すことが苦手であるが、細かく見通しを持つことで、完成度の高い作品を仕上げることができると推測される生徒。絵を描くことや、想像力に自信がないが、毎時間授業に参加し作業工程に素直に取り組むことで完成度の高い作品を仕上げることができる生徒。題材を提示し、段取りを説明することで、完成図をイメージすることができ、適切に時間配分を行い、短い時間でも手際良く仕上げることができる生徒。と様々で、個々に応じた指導支援が必要である。

(3) 系統観

1学年ではA表現（1）絵画・彫刻の内容で「模倣による制作」を行い、3学年ではA表現（2）デザインの内容で「実用的なものの制作」を計画している。2学年では、美術が選択されなかったため、授業は行われていない。本クラスでは、1学年でのA表現（1）絵画・彫刻では木彫による作品制作に取り組んでいる。これまで粘土を扱う美術の授業は行っていない。しかし、3学年になってクラスの総合的な学習の時間の中で、陶芸粘土を使った小物づくりを行っており、熱心に取り組む姿が見られた。今回、「実用的なもので卒業の記念になるものを」と考え、家庭科の「和文化」の授業と協力して、手づくりの抹茶碗でお茶会を行うことで日本の伝統文化に対する理解度を高め、生徒の心に残る体験にしたいと考えた。

(4) 指導観

陶芸作品の制作では、乾燥が不十分であったり、粘土に空気が入ったりしてしまうと、焼成時に破裂してしまう。また粘土の厚みに大きな差があれば、亀裂が入ってしまう。陶芸作品の指導では、このような大事なポイントを確実に実施することが必要である。そこで作陶の流れを紙粘土で一度練習し、見通しを持つことができるようにする。完成イメージが目の前にあることで、陶芸粘土での作業がスムーズになり、紙粘土での練習で出てきた課題などを、学習プランシートを使って整理することで、陶芸粘土での作業の改善を行いたい。言葉での指示が分かりにくい部分は、道具や見本動画などを用意することで視覚的に、イメージしやすくすることができるようにする。

また、家庭科の「和文化」の授業で、自ら作成した「抹茶碗」を使ってお茶をたしなむという体験をする

ことで、家庭科と美術の教科で横断的に取り組み、双方での理解度が高まると考える。日本の伝統文化をより身近に感じて、生涯愛好する気持ちを培いたい。

研究の視点1
「振り返りの工夫」

①工夫したいことや感想をシートにまとめ振り返ることで、目標やできるようになったことを意識できるようにする。

研究の視点2
「対話活動の工夫」

②個別の工夫点やできたことを引き出す発問をすることで、自分や他生徒のよさに気付くようにする。

3 題材の目標

- 自分が使用する「抹茶碗」を制作することで、日本の伝統文化を身近に感じることができる。
- 粘土を使った実用的なものの作りを行うことで、機能的なデザインについて理解を深めることができる。

4 題材の評価規準

関心意欲態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
積極的に制作に取り組むことができる。	制作のポイントを理解することができる。	陶芸の技法を使って完成することができる。	クラスメイトの作品の良さを見出すことができる。

5 学習計画

次	時間	小題材	学習内容
一	2	鑑賞，抹茶碗の歴史	抹茶碗の歴史に関する動画を視聴し，学習プリントに記入する。
二	3	紙粘土で試作	紙粘土を使って，抹茶碗を制作する。
三	3	陶芸粘土で作成	陶芸粘土を使って抹茶碗を制作する。
四	2	施釉練習（紙粘土）	釉薬のかけ方を学び実際にかけてみる。
五	2 (本時1)	施釉本番（素焼き）	練習を踏まえ，素焼きに施釉する。
六	1	完成・振り返り	完成作品の鑑賞会をする。

6 本時について

(1) 本時の目標

- 前回行った練習を踏まえ、イメージどおりに釉薬をかけることができる。

(2) 本時の展開

時間	学 習 活 動	指導上の配慮事項 (★手だての評価)	自立活動との関連 (学習指導要領自立活動)	教材等
導入 5 分	1 準備する。 2 始まりの挨拶をする。 3 本時の流れを確認する。	○黒板に準備物を示し，準備を促す。 ○健康観察をする。表情に変化がないか目視で確認する。 ○黒板に流れを掲示する。	2心理的安定(1)(2) 1健康の保持 2心理的安定(1)(2)	準備物の写真 本時の流れ掲示物

展開 35分	4 前回の復習をする。(徹底)	○練習の様子を動画で確認し、学習プランシートを使って注意点を復習する。	4環境の把握(2)	テレビ 動画 学習プランシート
	5 練習を踏まえて、工夫したい点を発表する。(能動) ※3(2)イ	【研究の視点1①研究の視点2②】 ○学習プランシートを活用し答えやすい発問をする。 ○発表の内容を板書する。 ★個別にそれぞれの工夫を引き出す発問ができたか。	6コミュニケーション(5)	模範動画
	6 釉薬がけのポイントを確認する。(徹底)※3(2)イ 7 本番の釉薬がけをする。 ※3(2)ウ	○模範動画を見て、施釉の方法の最終確認をする。 ○1人ずつ順番に行く。 ○終わった人は、学習プランシートの記入を行う。	4環境の把握(2)	釉薬 バケツ ゴム手袋
まとめ 10分	8 片づけをする。 9 授業の振り返りをする。 10 今後の予定を確認する。	○手洗いをし、身なりを整える。床が汚れた場合は雑巾で拭きとる。 【研究の視点1①研究の視点2②】 ○学習プランシートを元に工夫した点やうまくいった点を発表する。 ○体調を確認する。 ○本焼き作業の日程を伝える。	1健康の保持	雑巾 石鹸 たわし ファイル

参考※高等学校学習指導要領(美術編) 3内容A表現(2)デザイン

- イ. 表現形式の特性を生かし、形態、色彩、構成などを工夫して創造的な表現の構想を練ること。
- ウ. 意図に応じて材料や用具の特性を生かすこと。

(3) 場の設定

